

生ごみの減量・再資源化施策に関する市民説明会 概要
【丸子地域・武石地域】

1 開催概要

開催日時		令和 6 年 1 0 月 3 1 (木) 18:30～19:10
開催場所		丸子文化会館セレスホール 大会議室
出席者	市民	3 3 名
	行政（市職員）	環境部長、ごみ減量企画室職員 4 名 資源循環型施設建設関連事業課職員 1 名
	報道関係	2 社

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	臭気	佐久市と長和町の堆肥化施設を見学したが、住宅から離れていた。建設予定地は梔子ワイナリーの近くであるが臭気は影響しないか。	臭気を出さないことが最重要と考えており、市が設定する公害防止基準値を超過しないような管理をしてまいりたい。他自治体の堆肥化施設も見学したが、建屋の外では臭わない施設もあるため、同様な対策をしてまいりたい。
2	維持管理	維持管理は民間事業者が行うということだが、単なる仕事としてではなく、循環型社会の構築に責任を持って取り組んでほしい。	民間事業者にはもちろん責任を持って取り組んでいただくが、維持管理に関しては市や知見のある第3者機関のモニタリング調査もあるため、一丸となって取り組んでまいりたい。
3	周知	全市民の理解や協力がないとごみの減量は進んでいかないため、自治会単位で説明会を行うなど、更なる周知を図ってほしい。	分別収集開始前には対象自治会毎の説明会を予定しているが、計画段階では、地域単位での説明会とし、広報誌やホームページなどを活用しながら周知を図ってまいりたい。

4	生ごみ袋	・佐久市では生ごみの水分が臭いの原因になるということで、水分を吸収する紙製の生ごみ袋を使用していた。上田市でも導入を検討してほしい。 ・プラ袋とする場合は、袋に入れる前に水分をよく切ることを周知してほしい。	・佐久市では3年ほど前に紙袋から生分解性プラスチック袋に変更している。上田市でも紙袋や生分解性袋、蓋付きバケツなど様々な排出方法を検討してきたが、原価が安く市民の費用負担が少ないことや使いやすさなどからポリエチレン袋とした。 紙袋は水分を吸収するが、原価が高いことや中身が見えないなどの課題がある。生分解性袋は土に還り環境に良いが、原価が高いこと、袋の使用期限が1年間と短いこと、生ごみの汁などにより袋が溶けて液漏れする可能性があることなどの課題がある。 ・水分を含んでいると、ごみ袋から汁が漏れて集積所を汚す原因にもなるため、周知を図ってまいりたい。
5	その他	・有機物リサイクル施設は、一般廃棄物処理施設となるのか。 ・牛ふんは産業廃棄物だと思うが問題ないのか。	・一般廃棄物処理施設となる。 ・牛ふんを混合して堆肥化することについては問題ないと県とも協議済である。